



	書名	著者名	請求記号
1	目の見えない白鳥さんとアートを見にいく	川内有緒著	706/Ka
2	ハーブとアロマの心理療法	山本裕美著	146/Ya
3	GOOD VIBRATIONS:最高の体調をつくる音楽の活用法：免疫力・回復力を高める4つの力	ステファン・ケルシュ著、大山雅也訳	146/Ko
4	間に香る嘘	下村敦史著	913.6/Sh
5	風味の事典	ニキ・セグニット著、曾我佐保子、小松伸子訳	596/Se
6	プルースト効果の実験と結果	佐々木愛著	913.6/Sa
7	認知症世界の歩き方：認知症のある人の頭の中をのぞいてみたら？	箕裕介著	493.7/Ka
8	Why Drag?	マグナス・ヘイスティングス 写真	367/Ha
9	プリンに醤油でウニになる：味覚センサーが解明した仰天の食の謎	都甲潔著	S/07/493
10	脳活性折り紙全集：考えながら指先を動かす頭の体操	ブティック社	498.3/No
11	羊と錆の森	宮下奈都著	913.6/Mi
12	見るだけで体が変わる魔法のイラスト：健康になる！運動能力が上がる！	小池義孝著	498.3/Ko
13	最初に夜を手ばなした	椿冬華著	369/Ts
14	見えない星に耳を澄ませて	香月夕花著	913.6/Ka
15	色の秘密：最新色彩学入門	野村順一著	757/No
16	色を奏でる	志村ふくみ文、井上隆雄写真	753/Sh

目の見えない白鳥さんと

アートを見にいく

川内有緒著

意識することなく目の見えている私たち晴眼者は
どうゆくにものと「見て」いるのでしょうか？

見えていないのに見ていないもの、同じものを見ているのに
人によって全く違うものとして認識していること、

そして目の見えない人に対して抱いていく

無意識の差別。白鳥さんとアートを見に

いくことで著作者が抱く様々な疑問や

感情は晴眼者が見落としている事実などを感じます。



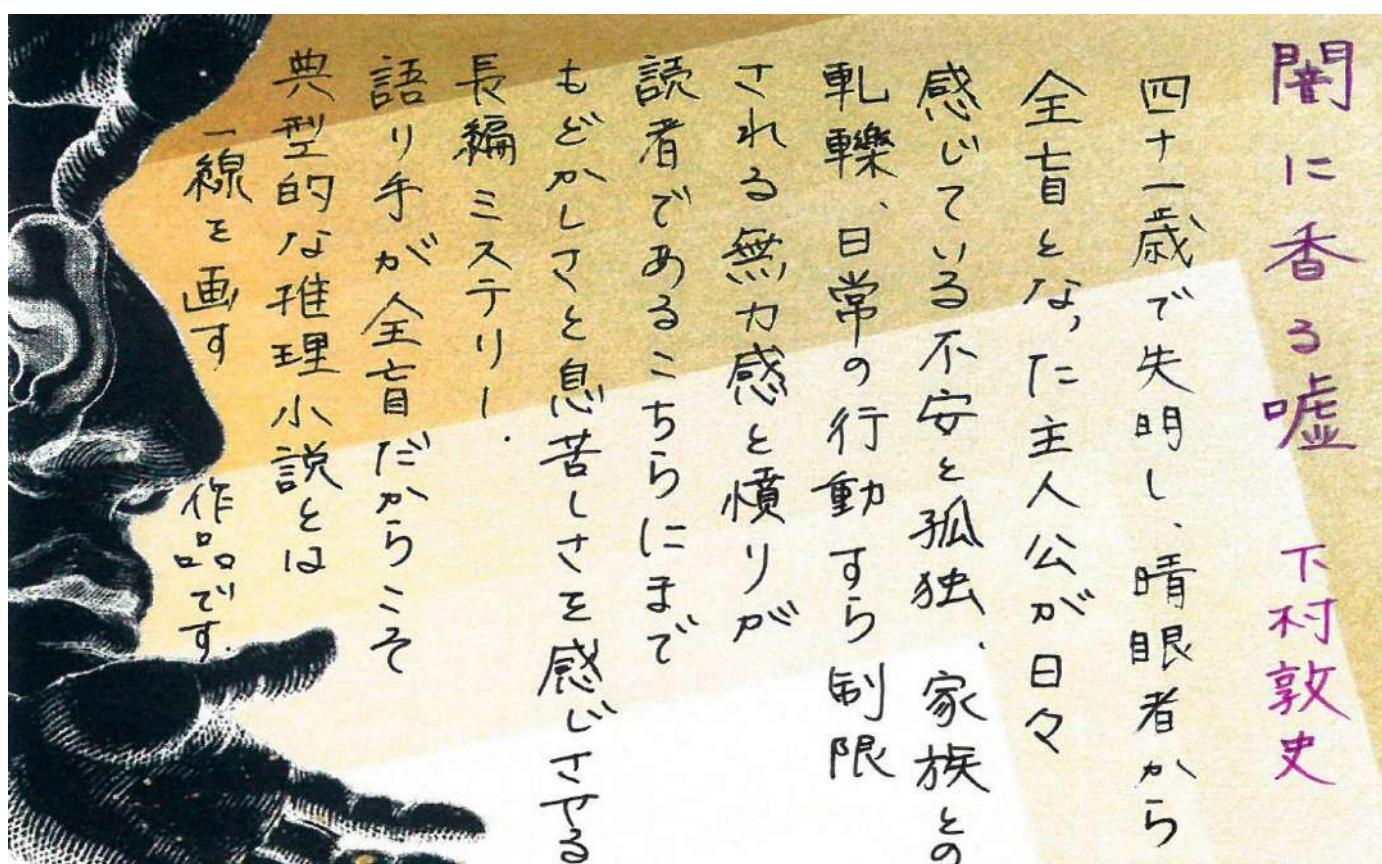
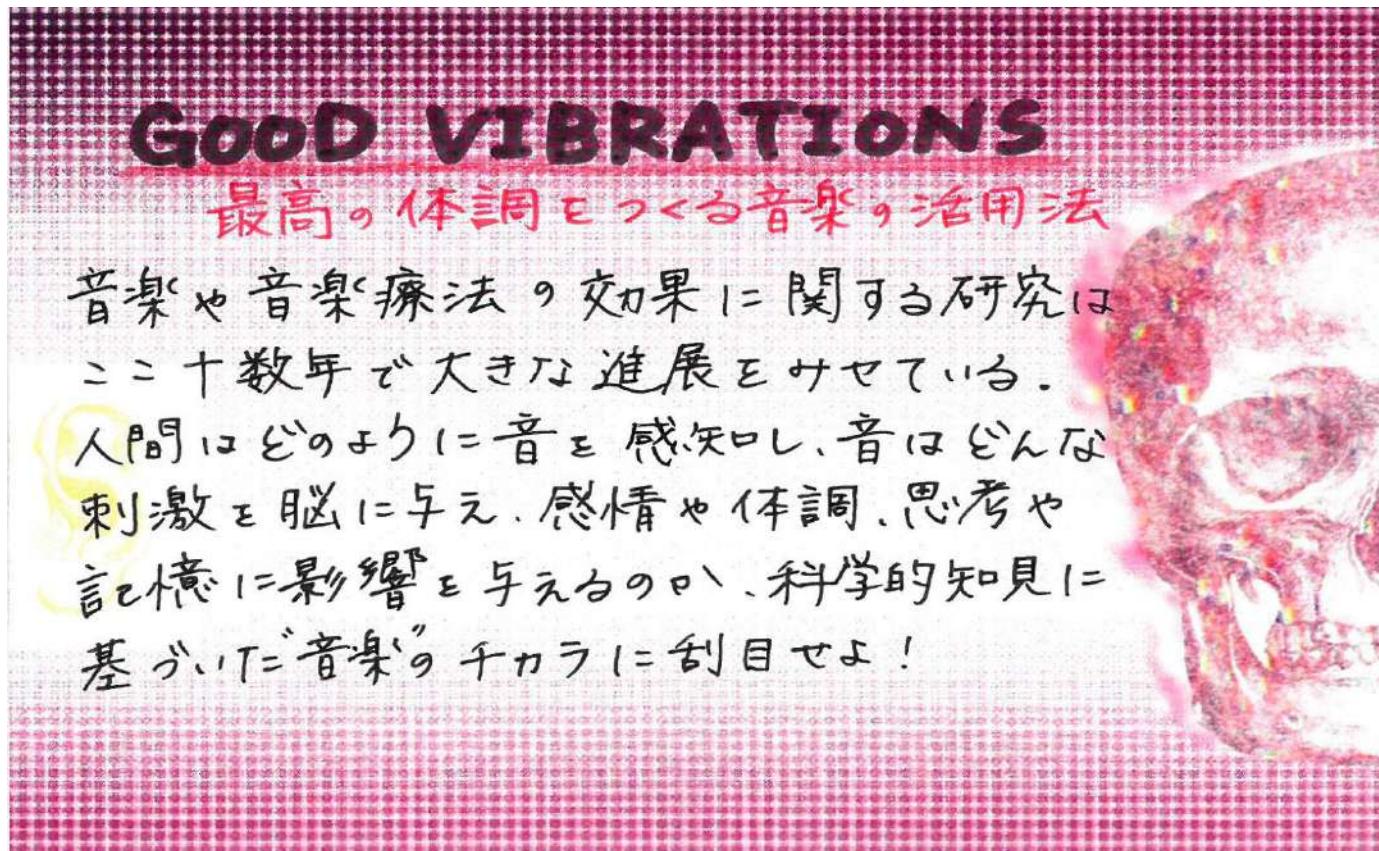
ハーブとアロマの心理療法

山本裕美著

ハーブ療法、アロマテラピーを活用
しながら、心のコンディションを整える
方法を紹介している。

やる気が出ない、心配と不安、
緊張、恐怖、日睡眠リズムの乱れ
など、レシピとして具体的な

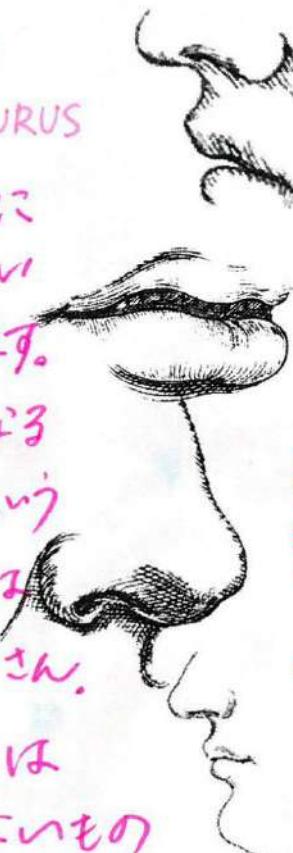
活用方法とともに適しているハーブを
紹介している。



風味の事典

THE flavour THESAURUS

隣の小説のサイト(レ)のように
嗅覚はもとも記憶を思い
出させる感覚といわれています。
感性と記憶の倉庫となる
風味。その言語化といつ
難題にトライした著者は
イギリスのニキ・セグニットさん。
取り上げられる風味には
日本ではなじみのないもの

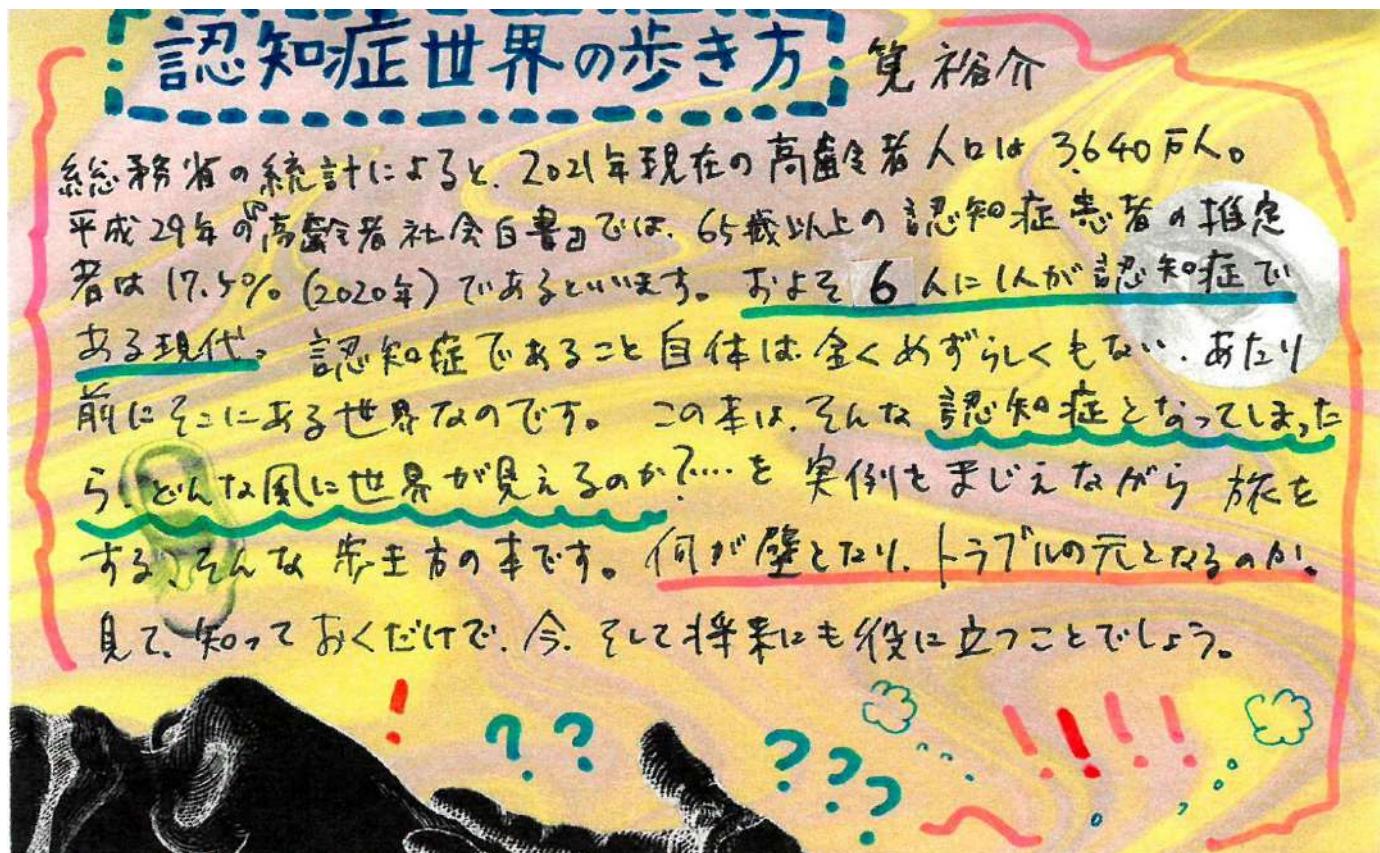


もあって読んでいるだけでも
楽しい事典だと思います。
(なぜか444という数字に
こだわる)コーヒーとオレンジ
のお酒(P.21)など
レシピもあるので 気になる
風味にトライしてみるのも
楽しいでしょう。
思わず思い出との
再会があるかも しれません。

ブルースト効果の実験と結果

嗅覚のもつ特徴的な機能、香りと記憶の結び付け。マルセル・ブルースト著『失われた時を求めて』の主人公が紅茶にマドレーヌを浸した香りで幼いころの記憶を思い出すという場面描写からブルースト効果と呼ばれている。その効果の実験と結果という、大胆なタイトルを用いたこの小説の中で行われる実験は、「受験本番時に思い出すために勉強する前にたけのこの里を食べる」という、そう嗅覚というより味覚に傾いている実験だ。記憶装置として前提がそもそもがズレている。でもそういうことなのかもしれない。この佐々木愛という作家はどこかズレた人間を巧みに写し取っている。

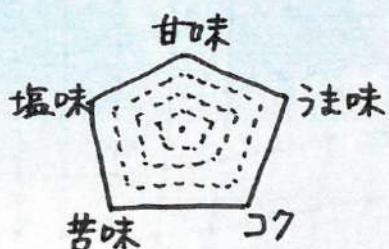
表題作他3篇全てに若き日の心細さと万能感が
混ざったものが匂い立っているようで、
読む者を4月の教室に踏み込む気持ちにさせる
そんなブルースト効果のある青春小説。



プリンに醤油で「ウニ」になる

味覚センサーが解明した仰天の食の謎

著者の都甲潔氏は九州大学教授で、味を測る味覚センサー（装置名：TS-5000Z）の開発者である。



味は5つの基本味から構成される。味覚センサーで測ると、人間の感じる味が数値化できる。

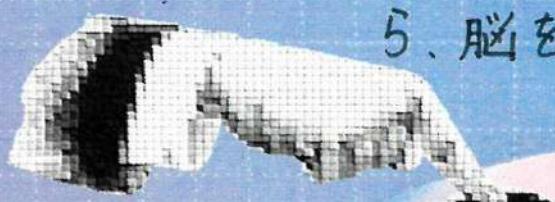
プリン+醤油とウニのくもの巣グラフ（レーダーチャート）が似ているのである。

では、問題。牛乳+たくわんは、何の味になるでしょう？



脳活性 折り紙全集

誰もが一度は折り紙に触れる機会があったと思います。正方形のペラペラの紙を折り重ねていくことで立体的な姿に変わっていく様子は、胸が踊ります。複雑になればなる程、「ここはどうすればこうなるんだ?」「これがこっち?いや、こうか?」と頭の中で考えることや紙の感触を楽しみながら、脳をきたえましょう!



羊と鋼の森

文章を読んで音を感じたことはありますか？

豊かな表現の理解を深めていくほどに、その場面に流れる音楽が聞こえてくる...ような気がする。そんな不思議な体験が出来る1冊です。音楽に縁のなかった少年がピアノの調律師として成長していく過程で多くの人に出会い、悩む。その中で聞こえてくる音に耳を傾けてみて下さい。

『見るだけで体が変わる 魔法のイラスト』

(小池義孝著)

まずはだまされないと思ってページをひらいてみてください。
早い人は読みはじめて数ページで、体や、心に変化がある
かもしれません。

見えるだけで、体は
ここから実感できる

骨や筋肉など、

目にするにはできませんが、

体を動かしてから重要な点がみつかります、それを本書の「魔法の
イラスト」はとてもわかりやすく教えてくれます。姿勢とメンタル、
動きとメンタルの関係にも納得！

読んでいて樂しく、体も心も軽くなる一冊です。



意識しているところを
断然棄てる！という
思ひます。

体の内部は普通は
その見えない部分に、未だ

著者の椿エルは、生まれつき耳が聞こえず、病で右目が見えなくなり、左目も少しづつ見えなくなっている。でも、ゲームや本やテレビなど大好きがいい、はいで、そして次第に手ばなしていく大好きたちが増えていく。なくなつたものは元に戻らなければ、工夫によって新たに得ることもあると諦めない。そんな意思の強い思いを感じる一冊です。

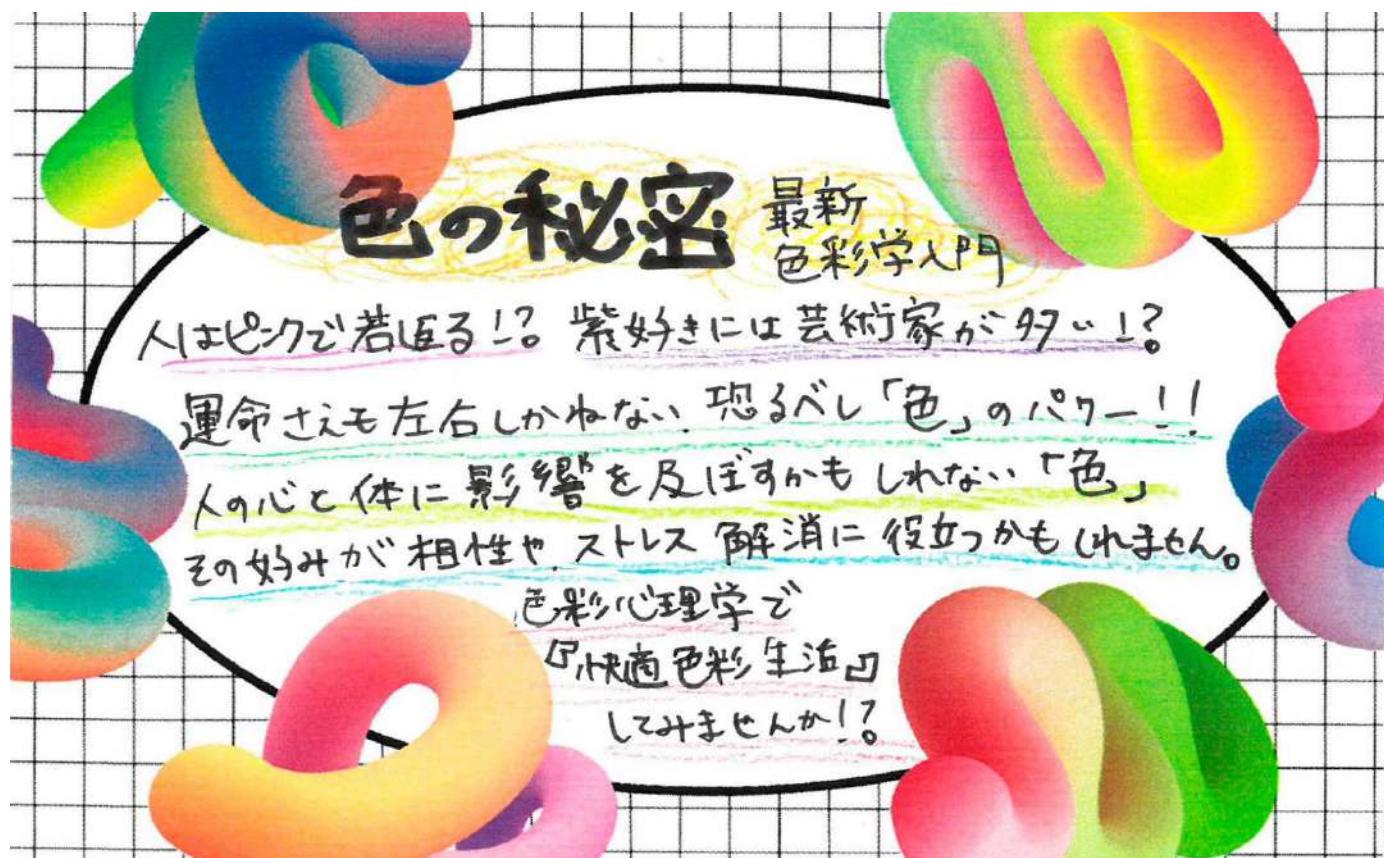
絵本から感じる椿エルの状況に恐怖を覚える
と同時に、その諦めない姿勢に尊敬の
念を抱きました。

最初に夜を手ばなしした 椿冬華 *Toka Tsubaki* 著

見えない星に耳を澄ませて 香月夕花

音楽療法士による、楽器を使ったセラピーにおける話です。
セラピールームにあるさまざまな楽器を“患者”が自由に
演奏したり、“先生”と楽器のセッションをすることでの、自分の
心の内に向か合います。そこでは奏でられる音楽は、
決して複雑なメロディーではなくてはなりません。
楽器を使って、心の傷が癒えなか…。
自分の心のゆきどりや、これまでの…。

半信半疑に読み進めましたが、音楽療法工の実習生である、
主人公の成長を通じて、少し分かった様な気がします。



色を奏ぐる 志村ふくみ・文

志村ふくみさんをご存じでしょうか。
滋賀県近江八幡市生まれで、御年98歳の染織家です。
絹織～絹糸～織、たゞ織物への重要無形文化財保持者
いわゆる「人間国宝」に認定された女性です。
また、隨筆、名手としても知られています。
彼女の織り成す文章から、いかに自然から色を
享受しているかがうかがえます。
自然から色を「頂き、自ら対話をす。読んで色を楽しむ
エッセイです。



MEMO





MEMO





愛知学院大学
歯学・薬学図書館情報センター

コンセプトコーナー 2022年 5月

Don't think, Feel! 本で感じるあなたの五感

